

## 同意書

## 【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で行われています。その方法には、バリウムを用いる方法（胃エックス線検査）と内視鏡を用いる方法（胃内視鏡検査）があり、いずれもその効果が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

## 【経口内視鏡検査の方法】

口から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。

また、色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

なお、生検が行われた場合、生検については、保険診療として別途請求があります。当日は健康保険証を持参してください。また、生検により粘膜に傷ができますので、検査後当日の食事は軟らかい消化のよいものを食べてください。過激な運動、長湯、旅行などは避けてください。

（経鼻内視鏡検査） 経鼻内視鏡検査を実施していない医療機関もあります

鼻腔の広さを確認するなどし、挿入ルートを決めた上で、鼻から内視鏡を挿入します。経口の内視鏡に比べ細い内視鏡を用いますので、体の負担が少ないとされています。

検査前には、内視鏡挿入時の鼻出血の予防などのために、鼻腔内に局所血管収縮薬を投薬し、その後、鼻腔麻酔を行います。

なお、鼻腔が狭い、鼻出血しやすい場合などにより、鼻からの内視鏡の挿入が困難な場合は、経口内視鏡に変更する場合があります。

## 【偶発症】

偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検診では、10万件に78件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- 1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）
- 2) 生検により出血、穿孔
- 3) 薬剤によりアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- 4) 検査前からあった疾患の悪化（症状の出ていなかった疾患も含む）
- 5) 鼻痛や、鼻出血（経鼻内視鏡の場合）

なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。

## 【その他】

この検診で得られた情報は、あなたの健康状態の把握（精密検査、治療等）、及び個人を特定する情報を除いて、検査の精度管理や疫学的な調査・研究などに活用することがあります。

個人情報取扱いは、住所地市町の条例を遵守します。

平成 年 月 日 説明医師名

上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意します。

平成 年 月 日

(住民票の)住所

受診者署名

受診者代理署名 (続柄)